

令和3年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月22日実施)	総合評価(3月17日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	・自立と社会参加を目指し「学びの連続性」「個のニーズに合わせた教育」を推進する。	・各学部で体育の「教科指導内容表」を作成する。	・令和2年度に作成した「体育」のねらいと学習内容のまとめを基に、各学部で「育てたい力」のキーワードを抽出し、体育の「教科指導内容表」を作成する。	・各学部で「育てたい力」のキーワードを抽出し、体育の「教科指導内容表」を作成できたか。	・体育の実践を通して、小学部から高等部、分教室で「教科指導内容表」を作成した。	・作成した表を基に実践を重ね、常にアップデートしていく。 ・体育以外の教科の指導内容を整理する。	<学校運営協議会> ・就労の基礎は体力。体育を重視するのはよい。	・各学部で体育の「学習内容表」が作成できた。次年度以降、実践を重ね系統性の検討を進めたい。	・各学部の「学習内容表」を基に、小学部から高等部までの系統性を検討するとともに、体育以外の教科の学習についても検討を進める。
	・児童・生徒の命を守る教育を推進する。	・防災に関する授業を実施し、ねらいと学習内容を集約する。	・各学部・室で実施する授業から、防災に関わる内容を洗い出し、ねらいと学習内容を一覧にする。	・防災に関わる授業を計画的に実施し、ねらいと学習内容の一覧が作成できたか。	・各学部で防災に関する授業を実施し、実践をまとめた。	・防災の学習を系統的にまとめ、段階的、計画的に学習を進められるようにする。	<保護者アンケート> ・「防災対策の強化」の取組はされていると評価できる。	・防災に関する授業実践を各学部で実施することができた。引き続き計画的に取り組みたい。	・防災に関する学習の内容を整理・検討し、校務グループ安全防災班と連携し、組織的、計画的に進める。
2 児童・生徒 指導・支援	・アセスメントを充実させ、一人ひとりの教育的ニーズに応じたきめ細やかな指導・支援を組織的に行う。	・アセスメントの観点を明確にし、学部でアセスメントを実施する。	・指導場面での行動観察、アセスメントツール、専門職の助言を基に、アセスメントの観点を整理し、アセスメントプランの試案を作成する。	・実際にアセスメントを実施し、アセスメントプラン(試案)を作成できたか。	・太田ステージ評価の実施、研修を行い、結果を踏まえた個別教育計画の目標設定と指導につながった。	・認知面に加え、知覚・感覚面、言語面、運動面、情緒面、社会性についてアセスメントの観点を明確にし、指導・支援に生かしていくことに継続して取り組む。	<保護者アンケート> ・「実態を的確に把握した上で目標や手だてが設定されている」について、93.3%の評価を得た。	・アセスメントツールを活用することで、実態把握の観点が明確になり、目標、支援の手だての設定、授業づくりに生かすことができた。認知面以外の観点を加えていきたい。	・認知面に加え、知覚・感覚面、言語面、運動面、情緒面、社会性についてアセスメントの観点を明確にし、指導・支援に生かしていくことに継続して取り組む。
	・インクルーシブ教育に係る本校の役割を模索し、推進する。	・オンラインでの授業交流を実施し、活動内容を整理する。	・授業交流を工夫して実施し、オンラインと具体的な学習活動との効果的な組み合わせを検討する。	・オンラインと具体的な学習活動の特性を明確にし、授業交流の内容を整理できたか。	・近隣の小学校と本校小学部でオンライン授業を実施し、課題を確認した。	・事前学習から交流授業、事後学習の一連の取組をまとめ、オンラインでできる交流のパッケージを増やしていく。	<学校運営協議会> ・コロナ禍でも工夫して交流が行われていた。保護者の評価が低いのが残念である。	・オンラインでの交流を実施し、双方で成果が認められた。取組の評価基準を明確にし、保護者へわかりやすく周知していきたい。	・オンラインでの交流の意義を明確にし、具体的な学習活動と効果的に組み合わせた実践を行う。

	視点	4年間の目標	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月22日実施)	総合評価(3月17日実施)	
		(令和2年度策定)		具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	・卒業後の生活を見通し、小・中・高それぞれのライフステージに応じた進路指導・支援を実施する。	・高等部の段階で身につけたい力と日ごろの指導のつながりを手引きにまとめ、移行支援に活用する。	・高等部の実践で、身につけたい力と具体的な活動を例示した手引きを作成する。 ・小・中学部保護者対象の進路学習会を開催し、手引きを基に身につけたい力と、具体的な取り組みを説明する。	・身につけたい力と具体的な活動を例示した手引きを作成できたか。 ・保護者に進路学習会のアンケートを実施し80%以上の理解度。	・高等部段階で身につけたい力の実践を通して整理し、進路の手引きを改訂した。 ・保護者対象学習会は感染症のため開催できなかった。	・小・中学部保護者への説明は、コロナ感染症の拡大により実施できなかったため、次年度以降継続して取り組んでいく。	<保護者アンケート/学校運営協議会> ・「進路指導の充実」が今後期待することで3年連続1位。引き続き充実させてほしい、との思いと考えられる。	・手引きの改訂を進めたが、保護者対象進路学習会の開催ができず、活用に至らなかった。保護者とともにキャリア教育を行うためにも、小中学部での学習会の開催を行いたい。	・手引きを最新の情報に更新しながら、保護者対象の進路学習会を開催し、家庭と学校での具体的な取り組みを共有していく。
4	地域等との協働	・学校運営協議会を活用し、地域との連携を推進する。	・バザー・文化祭等で、地域の方に農園の野菜を提供し「ほどようブランド」の周知を図る。	・農家等の講師・ゲストティーチャーを招き、販売できる品質の野菜作りに取り組む。 ・近隣の店舗で店頭配付し、周知を図る。	・品質を考慮した野菜作りに取り組み、収穫した野菜を地域に周知できたか。	・土壌の質や地域への周知の方法を検討したが、単年度での達成は困難だった。	・品質を上げる取組の中で地域から得た情報を活用し、生徒の活動の充実を図る工夫をおこなう。	<学校運営協議会> ・収穫した作物の販売等、地域で協力していきたい。農園を活用した児童生徒の遊びの発想は素晴らしい。	・野菜作りが、児童生徒の学習と地域との連携の充実につながっていると考える。地域との連携の方法は引き続き検討する。	・今年度農園活用部会で取組んだ「野菜」と「遊び」により、地域との連携を充実させていく。
		・センター的機能の更なる推進を図る。	・コーディネーター、専門職の巡回相談の内容を職員で共有し、支援の知識の充実を図る。	・指導・支援に生かせるよう、コーディネーター、専門職による研修を工夫して行う(ワークショップ、ロールプレイ等)。	・職員の研修後アンケートを実施し、支援についての理解に対する自己評価○80%以上。	・広報チラシを作成し、周知した。 ・アセスメント研修を学部ごとに実施。	・引き続きアセスメントツールの研修を通して、専門性の向上を図り、センター的機能の土台を固めていく。	<保護者アンケート> ・「地域や保護者への情報発信」の項目が77%で、十分伝わっているとは言えない。	・アセスメントの理解を深めることで、専門性の向上が図られ、校内の支援及びセンター的機能の充実につながっている。	・アセスメントツールの実技を通して、実態把握と支援の手だての理解を深め、専門性の向上を図っていく。
5	学校管理 学校運営	・事故不祥事防止を徹底する。	(事故)事故・ヒヤリハット事例を検証し、事故が起きやすい場面を共有する。 (人権)人権的配慮について行動テーマを決め、集中的に人権課題に取り組む。	(事故)ヒヤリハット事例を報告するフォーマットを整理し、事例の共有を図る。 (人権)各学部学年で「神奈川県人権教育推進の手引き」等を基に、人権的配慮の行動テーマを設定し、実践する。	(事故)ヒヤリハットの報告フォーマットを整理し、事例及び対応策を共有できたか。 (人権)設定した人権的配慮に対する自己評価○以上80%以上。	(事故)ヒヤリハット報告のフォーマットを作成し、事故防止の意識を高める働きかけを行うことで、共有する事例がほぼなかった。 (人権)研修会を実施し、自己評価97%の達成度。	(事故)過去の事故・ヒヤリハットの事例を基に、事故の前の「不注意」の事例の共有など、引き続き未然防止に取り組む。 (人権)繰り返意識的に取組むことが大切である。行動に結びつく研修会を実施していく。	(事故) <保護者アンケート> 事故・不祥事に関わる観点として「個人情報管理・運用」、「健康安全に配慮した取組」「会計報告」は、いずれも80~90%で良好。 (人権) <学校運営協議会>	(事故・人権共通) ・研修会でケーススタディや注意喚起などで継続して取り組むことで、事故につながるポイントをあらかじめ知り、不祥事ゼロ、人権的配慮の行動を維持したい。	(事故・人権共通) ・研修会をはじめ、学部、学年などでテーマを共有し、随時振り返り、見直しを行い、事故防止、人権的配慮の行動に継続して取り組む。
		・児童生徒と向き合う時間を確保するため、校務の効率化を図る。	・業務の効率化・縮減を見える化する。	・夏季休業中に、業務の効率化・縮減に向けたアイデア出しのワークショップを実施し、見える化する。 ・ワークショップのアイデアを試行する。	・職員アンケートを実施し、見える化による取り組みの自己評価○以上が80%以上。	・効率化の見える化のため、グループウェアを活用したが、事例が集まらなかった。	・本人が気づかない効率化の工夫は、客観的に見て言語化、視覚化することが必要であるため、継続して働きかけていく。	・具体的な取組は評価できる。指導が十分ではないという教員の思いは評価しづらい。	・業務の効率化は、現状維持バイアスの克服など、職員一人ひとりの意識改革が必要である。具体的な行動の工夫を共有することで引き続き取り組みたい。	・一人ひとりの業務の効率化の工夫を共有するとともに、組織的に改善する業務の洗い出しを行い、具体的な成果を積み重ねていく。